

新人看護師のリフレクションが専門職者としての成長に与える意味についての研究

著者	中村 美保子, 東 サトエ, 津田 紀子
雑誌名	南九州看護研究誌
巻	12
号	1
ページ	21-32
発行年	2014-03
URL	http://hdl.handle.net/10458/5699

新人看護師のリフレクションが 専門職者としての成長に与える意味についての研究

A Study on Meanings of Reflection in New Nurses Influenced Their Professional Development

中村美保子¹⁾・東 サトエ²⁾・津田 紀子³⁾

Mihoko Nakamura · Satoe Higashi · Noriko Tsuda

Abstract

The purpose of this study was to clarify the meanings in which the implementation of reflection in new nurses influences their development to the expert level.

For study methods, we performed five rounds feedback interviews with seven new nurses based on Reflective Journal, collected data on the effectiveness of the interviews through a semi-structured interview, and then conducted a content analysis using a qualitative and inductive method.

As a result of content analysis, nine meanings were obtained. The structures were as follows: "One's spiritual self-awareness" was the core category and led to "learning of the practice for creative nursing." In the course of this, "conquering uncomfortable feeling," "improvement of critical thinking ability," "acquisition of self-empowerment ability," and "acquisition of self-development ability" also emerged, followed by "behavioral change" and "change of mental framework as nurses" in the new nurses themselves. Finally, "habit of reflective thinking" had an effect on the whole process and supported the development of new nurses. It was clarified that reflection in this study was meaning for the development of new nurses into experts. It was suggested that reflection was an effective method of the educational support for new nurses.

要 旨

本研究の目的は、新人看護師にリフレクションを行なうことが、専門職業人としての成長にどのような意味を持つかを明らかにすることである。研究方法は7名の新人看護師にリフレクティブジャーナルをもとにフィードバック面接を5回実施し、5回終了後にその効果を半構造化インタビューでデータを収集し、質的帰納的方法で内容分析を行った。

抽出された9つの意味の構造は、【自己への気づき】を中核として【創造的な看護実践の学び】へとつながり、その過程では【わだかまりの克服】【批判的思考能力の向上】【自己をエンパワメントする力の獲得】【自己啓発力の獲得】を生成し、新人看護師自身の【行動の変容】や【看護師としての内面的変化】をもたらしていた。また、【振り返りの習慣化】は、プロセス

-
- 1) 宮崎大学医学部附属病院
Faculty of Medicine, University of Miyazaki Hospital
 - 2) 宮崎大学医学部看護学科 基礎看護学講座
School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki
 - 3) 元宮崎大学医学部看護学科 基礎看護学講座
Former School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

全体に作用し、新人看護師の成長の後押しとなっていた。本研究のリフレクションは、新人看護師の専門職としての成長に意味を持つことが明らかとなり、新人看護師の教育支援の方法として活用できることが示唆された。

キーワード：リフレクション，新人看護師，専門職者，成長
reflection, new nurse, professional, development

はじめに

医療の高度化、複雑化、人々の健康意識の向上に伴い、国民の看護職に対する期待は大きく、不確実で不安定な問題に対応することが求められており、質の高い創造的な看護実践を提供する看護職の育成が必須の課題となっている。しかし、看護の基礎教育を終了したばかりの新人看護師の実践能力は臨床現場で求められる現状には見合っていない状況にある(野地, 2004)。このような課題を解決するために、各施設では独自に、新人看護師の看護実践能力向上のため、専門職業人として知識・技術・態度の教育を目的に現任教育が行われてきた(田村, 2008; 内田ら, 2008)。また、プリセプタ - シップの導入(竹崎ら, 2002; 横土ら, 2000; 松本ら, 2008)、臨床研修看護師制度を作り育成する試み(水口, 2007; 佐藤, 2007)、新人看護師のエンパワメントを引き出すプログラムの作成と実施(前田ら, 2007; 幸ら, 2007)等、様々な方法で新人看護師の教育・支援に取り組んでいる。

しかしながら、新人看護師の状況は、実践能力が臨床現場で求められるレベルに達していないことのみでなく、社会人・医療人としての成熟や自覚が乏しく、患者・家族に対する常識的な接遇・マナーなどコミュニケーションがうまくとれない傾向にあるなどの問題がある。このような状況に対し、厚生労働省は新人看護職員に対する卒後1年間に修得すべき技術・知識の「到達目標」と、その達成のための「研修指針」を示した。研修指針では、「生涯にわたる看護実践の基礎となる新卒者の1年間に新人看護職員が習得すべき看護技術等の到達目標および新人看護職員に臨床で必要とされる必須な知識・技術・態度」が示されている(厚生労働省; 2009)。この指針の特徴は、新

人看護職員が臨床現場で看護実践する上での問題点に対応する内容で知識・技術の習得に重きを置いた教育・支援にあり、新人看護師が一人前の看護師として成長し、安全な看護実践を遂行するためには、必要不可欠なものである。しかし、それで十分であるとは言い難い。医療の高度化、複雑化、社会の要請に応じた質の高い創造的な看護実践を提供できる看護職を育成するためには、新人看護師が看護場面の状況に応じて自ら判断し考える力を獲得し、また、人間としてしかも専門職業人として成長するための内面にも目を向けた教育・支援の必要がある。

その教育・支援とは、新人看護師が自己の看護実践を振り返り、体験を深く吟味し、自己に気づきそこから学ぶことによって成長する教育的関わりである。これにより、はじめて新人看護師は専門職業人として成長し、創造的な看護実践へとつなげていけるのではないかと考える。

このような実践からの効果的な学びを可能にし、看護実践力を向上させるツールとしてリフレクション(reflection)があげられる(田村, 2007; サラ・バーンズら, 2005)。専門職の教育におけるリフレクションの概念は1980年代にD.Schon(ドナルド・ショーン, 2001)が「技術的合理性(technical rationality)に支配されていることを指摘し、「技術的熟達者(technical expert)」から「反省的实践家(reflective practitioner)」への転換が必要であることを提唱し、人を対象とした専門職の成長にはリフレクションが必要であり、状況との対話が重要性を述べている。この概念の看護界への受け入れは2000年代になってからであり、S.Burnsが「看護における反省的实践」として新たな看護の専門家像について提示した中に見ることができる。日本の看護界においても2000年

代に入り、「リフレクション」や「反省的实践」あるいは「内省」に関する記述や研究が増加し、経験（実践）からの学びを深める学習のあり方として評価され、浸透しつつある（本田，2003；青木，2003；小山田，2007）。

リフレクションに関する研究を遡及検索し分析した結果、看護学生に対する研究（中田ら，2002；田村ら，2003；中田ら，2002；中田ら，2004；加瀬田ら，2007）や看護教員を対象とした研究（太田，2001），中堅看護師（池西ら，2008）やCNS（Certified Nurse Specialist 専門看護師）（池西ら，2005）を対象としたリフレクションの研究はみられたが、新人看護師のリフレクションに関する研究は稀少であった。従って、新人看護師の教育・支援にリフレクションを導入するためには、まず、経験（実践）からの学びを深める学習のツールであるリフレクションを新人看護師が行うことは、どのような意味を持つのかを明らかにする必要があると考える。

そこで、本研究では、新人看護師が自己の看護実践を振り返りリフレクションを行うことが、専門職業人として成長するためにどのような意味があるのかを明らかにすることを目的とした。

用語の定義

リフレクションとは、経験により引き起こされた気にかかる問題に対する内的な吟味及び探求の過程であり、自己に対する意味づけを行ったり、意味を明らかにするものであり、結果として概念的な見方に対する変化をもたらすことである（サラ・バーンズら，2005）。リフレクションには、行為のなかのリフレクション（reflection in action）と、行為についてのリフレクション（reflection on action）の2つのタイプがある（サラ・バーンズら，2005）。本研究のリフレクションは、出来事の後に、あるいは出来事から離れたところで行われる自分自身の実践を振り返り、経験を意味づけしたり吟味したりするものである。つまり、実践知を獲得していく回顧的な吟味である行為についてのリフレクション（reflection on action）のことである。

方法

1. 研究デザイン

本研究は、新人看護師を対象に、リフレクションをツールとして実施し、分析にクラウド・クリップペンドルフの手法（クラウド・クリップペンドルフ，2002）を用いた質的帰納的研究である。

2. 研究参加者と研究期間

本研究は、新人看護師のリフレクションの意味についての研究であるため、看護の基礎教育課程を修了直後、国家試験に合格して免許を取得し、2007年3月に卒業した臨床経験のない新規採用者を参加者とした。そのうち、研究者の病棟に配属され、研究協力の承諾を得られた新人看護師7名を参加者とした。研究期間は、2007年4月から2008年3月であった。

3. 新人看護師のリフレクション実施の手順

- 1) 新人看護師は、2ヶ月毎（5月，7月，9月，11月，翌年の1月の5回）に、Gibbs（サラ・バーンズら，2005）のリフレクティブサイクルを基に構成したリフレクティブジャーナルを記載した。その内容は 振り返りの場面と理由， その看護の場面の状況での気持ちや感情と理由， その看護場面でどのような行動（言動）をとったか，行動の良かった点と問題な点，看護場面で他の人はどのような行動（言動）をとったか， 場面を振り返り今，自分が考える行動（言動），看護体験の振り返りからの新たな気づきや学んだことについてであった。
- 2) 新人看護師が記載したリフレクティブジャーナルに研究者がコメントを行い，記載したジャーナルをもとに，提出後約1週間以内に研究者とフィードバック面接を行った。

リフレクティブジャーナルへの記載内容を意味のある経験にするための研究者のコメント内容は、研究を開始する前年からリフレクションの専門家に訓練を受けた上で行った。1回のフィードバック面接の時間は30～40分で、面接はプライベートが確保される個室で行った。また、新人看護師の勤務に支障がなく、新人看護師が希

望する日程を確認して行った。面接者が研究者であったことから、倫理的配慮を厳守し、一研究者である姿勢を持ち面接を行った。

なお、これらに先立って新人看護師に対してリフレクションについて説明し、理解を得た。

4. 5回のリフレクション終了後のデータの収集

5回のリフレクティブジャーナルへの記載とフィードバック面接がすべて終了した2月初旬に、新人看護師がリフレクションを行った意味について半構造化面接を行った。具体的な内容は、新人看護師がリフレクティブジャーナルを記載した意味、リフレクティブジャーナルを基に研究者と対話をした意味についてである。新人看護師が語った内容は了解を得て録音した。

5. データの分析方法

本研究では、新人看護師がリフレクションを行うことでどのような意味があるのかの語りをデータとし、リフレクションが新人看護師の専門家としての成長に与える意味を探る研究であるため、成長に与える意味を表現する内容を深く追求するというテーマに沿った内容分析が適切と考えクラウド・クリッペンドルフの手法(クラウド・クリッペンドルフ, 2002)を参考に分析した。

新人看護師がリフレクションを行った意味についての語りを録音したデータを逐語録に作成し、

意味について語っていると考えられる箇所に着目しデータを文章または段落ごとに抜き出し、意味のある短文を取り出してコード化した。短文の同じ内容を持つと考えるコードをまとめサブカテゴリーとし、サブカテゴリーを同様に作業し、カテゴリー名をつけた。カテゴリーは含まれるコード数を基に重みづけをした。その後、カテゴリーの概念を生成し、カテゴリー相互の関係を検討してカテゴリー間の関連を図式化した。図式化したカテゴリー間の概要を文章化し、概念とした。

6. 信憑性の確保

データ分析のすべての過程において3名からスー

パーバイズを受け、解釈の妥当性を確認した。参加者には逐語録を作成した時点で逐語録に誤りや語りの内容にずれがないかの確認を依頼し正確性を得た。構造図ができた時点で再度解釈にずれがないかの研究参加者を含めたメンバーチェック(グレッグら, 2007)を行い正確性、適切性を確保した。

7. 倫理的配慮

研究者が所属する宮崎大学医学部医の倫理委員会の承認を得た(承認番号第349号)。そのうえで、研究依頼は、施設の看護部長に研究の主旨を説明し、同意を得た。参加者に対し、文書および口頭にて、協力の任意性と撤回の自由、協力の利益と不利益、個人情報保護、研究の公表方法、研究内・研究後の対応について説明し、文書による同意を得た。参加者には、研究と病棟の教育・支援は全く関係がないことを説明し、面接等は勤務に影響しないように配慮した。

研究結果

1. 参加者の背景

研究者の病棟に配属された新人看護師で同意が得られた7名であった。女性看護師6名、男性看護師1名であり、5名が大卒の看護師、2名が専門学校の卒業であった。7名全員が、5回のリフレクティブジャーナルを記載し、約30分から40分のフィードバック面接を受けた。5回のフィードバック面接終了後にリフレクションの意味に関するデータ収集のために半構造的インタビューを行った。インタビュー時間は16~30分で、平均インタビュー時間は21分であり、インタビュー回数は1回であった。

2. 5回のリフレクション終了後のデータの分析

新人看護師の語りから、新人看護師のリフレクションが専門職者としての成長に与える意味についての分析をした結果、表に1に示すようにコード総数165であり、29のサブカテゴリー、9つのカテゴリーが抽出された。生成したカテゴリーの概念をもとにカテゴリー間の相互関係を吟味し、

新人看護師に対するリフレクションの意味について構造化を行った。以下、文中に使用する記号の説明は次の通りである。

カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》で示し、カテゴリーを説明する概念を『 』で示した。新人看護師の語った内容をコード化したコードを「 」、データ補足説明を()で示した。

1) 各カテゴリーの概念

データから導きだした概念について、【自己への気づき】から各カテゴリーごとに説明する。カテゴリーを構成するサブカテゴリーは表1に示したコードの重みづけの高い順に述べ、コー

ドを用いて意味づけし、サブカテゴリー間の関係性を吟味しながら、生成された説明内容をカテゴリーの概念として記述した。

(1) 【自己への気づき】

【自己への気づき】とは、新人看護師が『自分の感情に気づき、自己の強み・弱みを含めた自己の傾向を知り、自己への認識を深めることにより自分自身の考えを明確にしていくこと』である。このカテゴリーは、《自己の傾向への気づき》《自己の強み弱みの気づき》《自己認識の深まり》《自己の考えの明確化》の4つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は「アドバイスをもらうことで自

表1 新人看護師のリフレクションの意味に関する内容分析結果

コード総数：165()内の数値はカテゴリーのコード数を示す

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
創造的な看護実践の学び (31)	病気の子ども・家族に向き合い理解する力の向上	11
	熟慮したコミュニケーションスキルの獲得	7
	ケアの創造性の高まり	7
	経験を活用する力の高まり	3
	実践の意味理解	3
自己への気づき (29)	自己の傾向への気づき	17
	自己の強み弱みの気づき	5
	自己認識の高まり	4
	自己の考えの明確化	3
批判的思考能力の向上 (27)	状況判断能力の高まり	18
	多面的な視野の広がり	7
	多様なアプローチの気づき	2
自己啓発力の獲得 (27)	自己自信の高まり	18
	経験を意識化する意味の理解	7
	自己成長の実感	2
自己をエンパワメントする力の獲得 (16)	肯定的フィードバックによる気づき	6
	前向きな行動の高まり	5
	弱みを克服する力の獲得	3
	支援を求める力の獲得	2
	他者から学ぶ力の獲得	1
	自己の他者への開放	1
看護師としての内面的変化 (15)	ケアの意思の高まり	4
	看護観に結びつく発見	4
	他者からの支援の気づき	4
	看護師としての認識向上	3
わだかまりの克服 (8)	わだかまりからの脱却	5
	否定的感情の克服	3
行動の変容 (6)	熟慮した行動への変化	6
振り返りの習慣化 (6)	自発的振り返りの習慣化	6

分では気づけない自分の良いところ、足りないところに気づいた」と《自己の強み弱みの気づき》があり、「慎重で悩みやすい自分の傾向に気づいた」「相手の思いに踏み込めない自分に気づく」と《自己の傾向への気づき》ができています。《自己の強み弱みの気づき》《自己の傾向への気づき》は、「自分で意識していない行動に気づいた」と《自己認識の深まり》へとなり、「(ジャーナルを書くことで) 漠然としていた自分の考えが具体的になった」と《自己の考えの明確化》になっていた。

(2) 【創造的な看護実践の学び】

【創造的な看護実践の学び】とは、『熟慮したコミュニケーションスキルを獲得し、患児やその家族にしっかりと向き合い、看護実践の意味を考えながら患児の状況に応じたケアを創造的に行う力をつけること』である。このカテゴリーは、《病気の子ども・家族に向き合い理解する力の向上》《コミュニケーションスキルの獲得》《ケアの創造性の高まり》《経験を活用する力の高まり》《実践の意味理解》の5つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「振り返ったことを意識しながら子どもや母親に話かけることができつつある」と《熟慮したコミュニケーションスキルの獲得》ができたことで、子ども・家族とコミュニケーションができるようになると子どもや家族に向き合うことができるようになり、「自分の行動で患者・家族に不愉快な思いを与え、影響することがわかった」と《病気の子ども・家族に向き合い理解する力の向上》となっていた。病気の子ども・家族に向き合うことができるようになると、「子どもに触れることの大切さを学んだ」と《実践の意味理解》ができるようになり、「振り返った経験を次の患者のケアに活かす気づきがあった」と《経験を活用する力の高まり》となっていた。《実践の意味理解》と《経験を活用する力の高まり》は相互に関係し、これが「経験と同じ次のケアをより良くしようと考えることができた」と実践の経験を子どもや家族の状況に応じたケアを行いたいという《ケアの

創造性の高まり》となっていた。

(3) 【批判的思考能力の向上】

【批判的思考能力の向上】とは、『物事を多面的に見ることができるような視野が広がり、状況判断能力が高まることにより、多様なアプローチに気づくようになること』である。このカテゴリーは、《状況判断能力の高まり》《多面的な視野の広がり》《多様なアプローチの気づき》の3つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「ひとつのことを多面的に見ることができるようになった」と《多面的な視野の広がり》があり、《多面的な視野の広がり》となったことで、「実際に行うべきことがわかることでケアについての判断ができるようになった」と《状況判断能力の高まり》となっていた。《状況判断能力の高まり》が高まることで、「患者を助けたいという気持ちは変わらないが患者へのアプローチの仕方が違って来たことに気づいた」と《多様なアプローチの気づき》となっていた。

(4) 【自己啓発力の獲得】

【自己啓発力の獲得】とは、『経験を意識化し活かす力がつくことによって成長できたと実感することによって、自己成長につながる自信が高まること』である。このカテゴリーは、《自己自信の高まり》《経験を意識化する意味の理解》《自己成長の実感》の3つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「(ジャーナルを書くことで) 同じ経験でも自分にとっての重みが違って力になった」と《経験を意識化する意味の理解》ができたことで、「同じ失敗を繰り返さない自分がいる」と《自己成長の実感》を持っていた。自分に成長を実感すると「自分にゆとりを持ち、自信を持って患者に接するようになった」と自分に自信をもてるようになり《自己自信の高まり》となっていた。新人看護師は成長すると自信が高まり、自信がつくと成長が実感できており、《自己成長の実感》と《自己自信の高まり》はお互い関係し合っていた。

(5) 【自己をエンパワメントする力の獲得】

【自己をエンパワメントする力の獲得】とは、『新人看護師は肯定的フィードバックにより、自己の他者への開放が可能となる。自己の他者への開放によって弱みの克服や他者からの支援を求める力を獲得し、前向きな行動がとれるようになること』である。このカテゴリーは、『肯定的フィードバックによる気づき』『前向きな行動の高まり』『弱みを克服する力の獲得』『支援を求める力の獲得』『他者から学ぶ力の獲得』『自己の他者への開放』の6つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「自分の疑問や行動を正しいと言われ安心した」《肯定的フィードバックによる気づき》で自分を認められ、肯定されたことで、「他の人の意見を取り入れるともっといい看護ができると気づいた」と《自己の他者への開放》ができるようになり、自分を他者へ開放できることで「振り返りにより前向きに努力して弱みを克服している自分が居ると思う」と《弱みを克服する力の獲得》、「同じ場面での先輩の行動を観察することができるようになった」と《他者から学ぶ力の獲得》、「先輩に助けを求め、質問ができるようになった」と《支援を求める力の獲得》となっていた。《弱みを克服する力の獲得》《他者から学ぶ力の獲得》《支援を求める力の獲得》ができるとそれが「自分ひとりで考えるのではなくネガティブにならないように対処できる」と《前向きな行動の高まり》となっていた。

(6) 【看護師としての内面的変化】

【看護師としての内面的変化】とは、『新人として他者からの支援に気づくことによりケアへの意志が高まり、看護観に結びつく発見や看護師としての認識が向上すること』である。このカテゴリーは《ケアへの意志の高まり》《看護観に結びつく発見》《他者からの支援の気づき》《看護師としての認識向上》の4つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「先輩看護師や回りの人に支えられていることに気づいた」と《他者からの

支援の気づき》ができたことで、自分では気づくことができない「行った行為後の学びでこれが看護だと発見できた」と《看護観に結びつく発見》になっていた。《看護観に結びつく発見》は、「(患者が)困っている時に‘何かしなくては’という気持ちが必要であることに気づいた」と《ケアへの意志の高まり》となっており、これが「ひとつひとつの看護技術・行為に責任を持たないといけない自覚ができた」と《看護師としての認識向上》となっていた。

(7) 【わだかまりの克服】

【わだかまりの克服】とは、『苦手意識などの否定的感情を克服し、わだかまっていた気持ちや気になる疑問の解決ができること』である。このカテゴリーは、『わだかまりからの脱却』『否定的感情の克服』の2つのサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「看護師に向いていないと否定的になっていたかもしれない自分に気づいた」と《否定的感情の克服》をしており、《否定的感情の克服》は、「わだかまっていた自分の行動を考え、見直しができた」ことを実体験したことで、わだかまっていたことの解決となる《わだかまりからの脱却》に至っていた。

(8) 【行動の変容】

【行動の変容】とは、『自分の傾向を新たな行動の獲得に活かし、自己理解を伴った熟慮した行動ができるようになること』である。このカテゴリーは、『熟慮した行動への変化』のサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「先輩から言われたことを振り返り一息入れてあせらずに行動できるようになった」と《熟慮した行動への変化》となっていた。

(9) 【振り返りの習慣化】

【振り返りの習慣化】とは、『看護の実践的経験の中から自己の行動を振り返る習慣、またそのことによって自分を見つめなおす吟味が習慣化することによって、質の高い看護実践を後押しすることができる新人看護師の成長のこと』である。このカテゴリーは《自発的振り返りの習慣化》のサブカテゴリーから構成されていた。

新人看護師は、「自分自身を見つめなおす習慣、考える習慣がついた」《自発的振り返りの習慣化》となっていた。《自発的振り返りの習慣化》により、自己の傾向への気づき、看護実践の気づきなどの習慣ができていたように【振り返りの習慣化】は、振り返りの習慣化】以外のすべてのカテゴリーに相互に影響、関係して新人看護師の成長につながるような構成になっていた。

2) 新人看護師に対するリフレクションの意味の構造について

新人看護師のリフレクションが専門職者としての成長に与える意味について分析した結果、得られた9つのカテゴリーと29のサブカテゴリーの意味内容をもとに相互関係を図示し、構造化したものを図1に示す。新人看護師が意味づけしていく過程を矢印で示した。矢印の太さの違

いは、インタビュー内容を反映して、新人看護師がリフレクションを行なう意味づけの大きさを示した。カテゴリー内の線は、サブカテゴリー間の構造を示したものである。重みづけの観点からみると、コード数では、【自己への気づき】は、【創造的な看護実践の学び】に次いで2番目であった。しかし、リフレクションの概念は、自己の経験を振り返り、自己対峙しながら吟味することであることから、リフレクションにおける中核概念と捉えることが妥当と考え、【自己への気づき】を最も基軸となるカテゴリーとして位置づけた。そして、【創造的な看護実践の学び】は最も高い次元の学びとして捉え、残る7つのカテゴリーの関係性を検討し、図式化した。

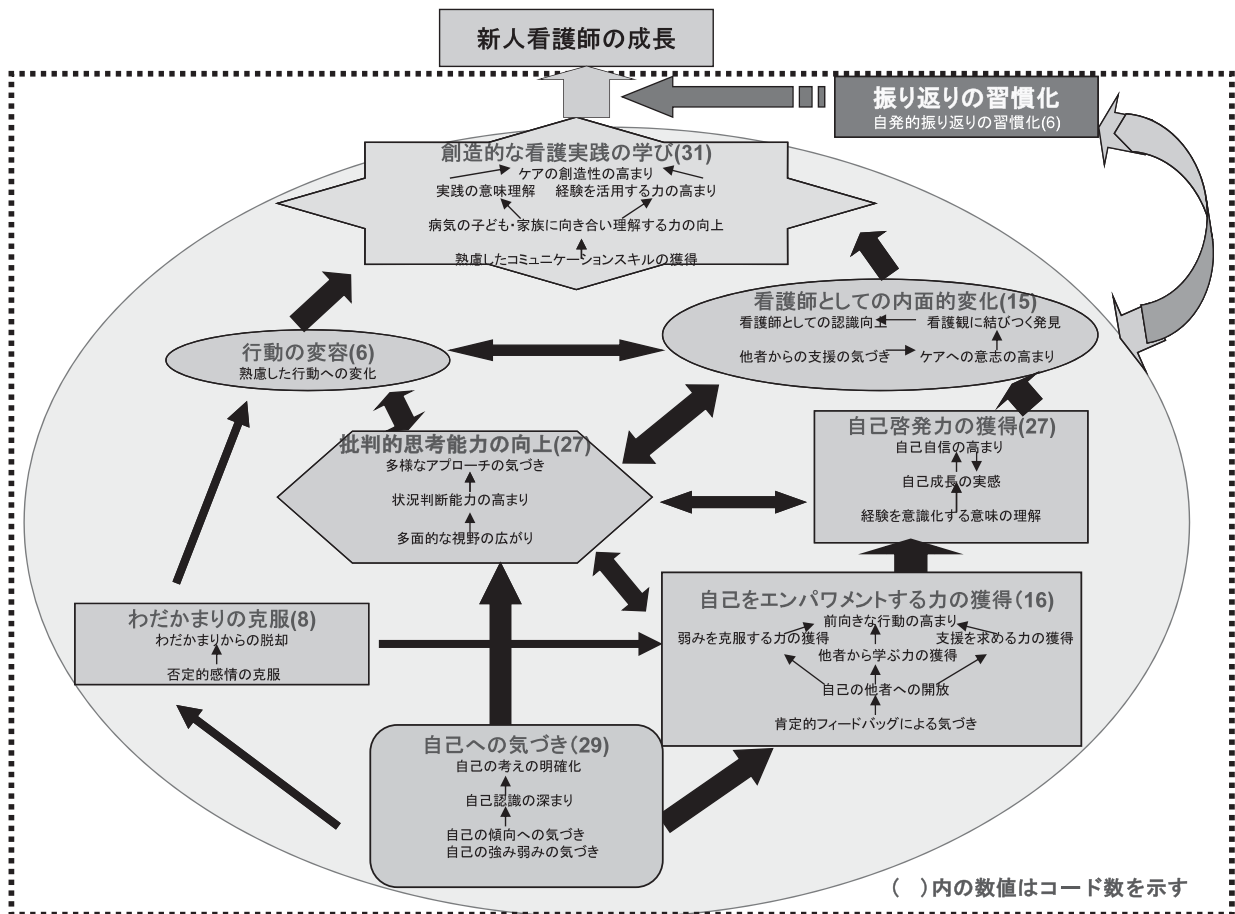


図1 新人看護師に対するリフレクションの意味の構造

考察

1. 新人看護師が行ったリフレクションの意味について

図1の構造図をもとにして、新人看護師がリフレクションを行うことの意味について考察する。リフレクションにより新人看護師は、【自己への気づき】ができたことで【批判的思考能力の向上】【自己をエンパワメントする力の獲得】【自己啓発力の獲得】【看護師としての内面的変化】へ、また、【わだかまりの克服】【行動の変容】のリフレクションのプロセスを経て、【創造的な看護実践の学び】へと統合するに至ることが説明できる。この過程において、【批判的思考能力の向上】は、【自己をエンパワメントする力の獲得】【自己啓発力の獲得】【行動の変容】【看護師としての内面的変化】の4つのカテゴリーと関係しあっており、特に、【行動の変容】【看護師としての内面的変化】と大きく相互に作用している。

つまり、すべてのカテゴリーは新人看護師の【自己への気づき】から始まり、他のすべてのカテゴリーに影響を与えている。つまり、【自己への気づき】は新人看護師がリフレクションを行う際の重要な概念となっていることが明らかである。

そこで、リフレクションによる【自己への気づき】の重要性について考察してみたい。田村ら(田村ら, 2007)は「リフレクションの概念は、自己の経験を振り返り、自己対峙しながら吟味することであるため、自己への気づきはリフレクションの中核概念である」と述べている。また、サラ・バーンズら(サラ・バーンズ, 2005)も、「自己への気づきはリフレクションの過程全体を支えるものである」と述べているように、【自己への気づき】は新人看護師のリフレクションの中核概念であり、しかもリフレクションの過程全体を支えているものであると言える。

また、【自己への気づき】ができた新人看護師は、【批判的思考能力の向上】へと発展していた。このことは、リフレクションが、自己の気づきを高め、批判的分析のできる看護実践家の育成に貢献するという研究報告(田村ら, 2002; サラ・バーンズ, 2005)や、クリティカルシンキング能力を

高めると言われている(津田ら, 2006)ことと一致する。より高次の能力へと高める源泉であると言っても過言ではない。その他にも【自己への気づき】は、苦手意識などの否定的感情を克服し、【わだかまりの克服】により、新人看護師は、子どもや家族に対峙できるようになり、これが看護師としての【行動の変容】へと発展したと考えられる。また、自己の内省のみならず他者からもフィードバックを受け、他者に認められることにより、自己を肯定し(中野, 2004)、自己を他者に開放することをも期待することが可能になっている。つまり、自己を開放することは、他者からの支援を通して学ぶ力を高め、自己を後押ししてもらうことにより前向きな姿勢になっていくと思われる。このような過程を経て、新人看護師が自己成長を感じることは承認や役割期待を促し(小林ら, 2002)、新人看護師の自信となり、延いては【自己啓発力の獲得】となっていくと考えられる。

ところで、リフレクションには、自己啓発の力、自己をエンパワメントする力、思考や束縛から開放する力があり、個人としての成長、専門職としての成長を促進する(田村, 2008)と言われている。新人看護師はリフレクションで【自己への気づき】を行い、【批判的思考能力の向上】があり、【創造的な看護実践の学び】へと展開するプロセスの中で【自己啓発力の獲得】【自己をエンパワメントする力の獲得】をしていた。この事実は前述した先行研究の知見とも一致するものであり、新人看護師の成長と解釈することができる。また、今後の専門職業人としての成長の兆しであると受け止められる。

また、Forneris SGら(Forneris SGら, 2007)が、新人看護師の批判的思考を向上させるためには、リフレクティブな学習による介入が効果的であると述べているように、リフレクションが新人看護師にとっては、リフレクティブな学習となり、【批判的思考能力の向上】となったと考えられる。つまり、リフレクションとは意図的なものであり、実践的な振り返りのプロセスなのである。それ故に、5回のリフレクションを体験した新人看護師は、【振り返りの習慣化】に至っていた。【振り返

りの習慣化】は、リフレクションのすべてのプロセスに影響し、新人看護師がリフレクションのプロセスを繰り返し行うことにより、専門職業人としての更なる成長につながることを期待できると考える。

2. 新人看護師に行なったリフレクションの方法について

リフレクションの方法には、経験について自由に語ったり、記述したり、対話をするなどがある。本研究では、Gibbsのリフレクティブサイクルに基づいて構成したリフレクティブジャーナルを新人看護師が記載し、それをもとに研究者は対話によるフィードバック面接をする方法をとった。これは、田村ら(田村ら, 2008)が、Gibbsのフレームワークは、サイクルに従って学習できる点で初心者にも受け入れやすいことやこのサイクルを経てリフレクションの必須のスキル(「自己への気づき」「表現」「クリティカルな分析」「評価」「総合)を学習することに通じると述べているように、新人看護師は、リフレクティブジャーナルを記載しリフレクションを行ったことでリフレクションの必須のスキルも学ぶことができたのではないかと考える。また、新人看護師は、記載を苦痛と感じることはなく、自分の考えていたことの再認識と捉えていることから、リフレクティブジャーナルを用いたリフレクションの方法は、新人看護師に受け入れやすいと考える。

新人看護師がリフレクションにより【批判的思考能力の向上】を感じていたことは、メラニー・ジャスパー(Jasper, M)(Jasper, M., 2003)が、リフレクティブなプロセスによる記述はクリティカルシンキング能力を高めることになると述べているように、新人看護師のクリティカルシンキング能力を高めることにつながったと考えられ、新人看護師にとってリフレクティブジャーナルを記載する振り返りは批判的思考能力を高めるために必要かつ有効であると言える。また、新人看護師の【行動の変容】は、前田ら(前田ら; 2008)が、新人看護師が看護実践の振り返りを記述した内容分析から、経験に対する見方や価値観および行動

の変化がもたらされていたと述べているように、新人看護師の行動変容を促す意味でもリフレクションの方法として、リフレクティブジャーナルが必要であると考えられる。

柳田(柳田ら, 2011)は、気づきを文章化することの意味について、書くということは、言語化しなければ気づけなかった自己の内面に気づくことであり、自分を客観化できることであると述べている。新人看護師が、リフレクティブジャーナルを記載することは、書くことで自分を客観化し、自分の強みや弱みに気づくことができる【自己への気づき】となったと考えられる。

リフレクティブジャーナルを記載し、リフレクションを行った新人看護師は、面接者(研究者でもある)と振り返りの対話による介入を行った。対話は、新人看護師が記載したリフレクティブジャーナルに面接者がコメントを記載し、リフレクションの専門家に指導を受けて行った。新人看護師と対話することにより、記載されていない部分を引き出すことが可能となり、【自己への気づき】となっていく(中村, 2011)ことからリフレクションには対話が有効であることがわかる。

中田ら(中田ら, 2004)も、教師と学生による対話の必要性を述べており、対話による振り返りは新人看護師においても有効であることを示唆している。それは、自己との対峙と状況との対話というリフレクションの根底にあるものの実現であったと考える。つまり、日常気づかずに通り過ぎていた経験を掘り起こし、深く吟味することから得られる新しい質の高い経験に高められたと考えられ、それをサポートする人も成長していったことが考えられる。リフレクションは、カタルシス効果がある反面、痛みを伴うものである(サラ・パーンズ, 2005)ことから、リフレクションの過程で生じる痛みを配慮した、サポートする人の存在が重要であると考えられる。

青木(青木, 2003)はGibbsのリフレクティブサイクルを活用してリフレクションを行ったことで、対話による相互作用とナラティブの記述を通して実践能力の向上と自身の成長に意義があったと述べている。新人看護師が、リフレクションを

通して【創造的な看護実践の学び】の意味づけができたことは、実践的思考能力の向上と考えられ、対話により成長を実感していることからリフレクティブジャーナルの記載と対話は新人看護師のリフレクションに必要であると考えられる。Gibbons (Gibbons T, 2003) は、「看護のエキスパートを育てるためには、看護師間でナラティブを奨励する文化をつくるのが重要である。看護師がうまくいった状況やいかなかった状況について看護体験から学習できる環境をつくることで、看護の知識を発展させ専門職者としての成長を助けることができる」と述べている。これは、リフレクティブジャーナルの記載と対話のリフレクションが、まさしく看護体験から学習できる環境を実践の関わりの中で作り、新人看護師の成長を助けることに繋がったと考えられる。

． おわりに

新人看護師にリフレクションを行い、終了後のインタビューデータを内容分析した結果、専門職者としての成長に与える意味の要素は、9つで構成されていた。その構造は、【自己への気づき】を中核として【創造的な看護実践の学び】へとつながっており、その過程では、【わだかまりの克服】【批判的思考能力の向上】【自己をエンパワメントする力の獲得】【自己啓発力の獲得】といった重要な力を獲得し、新人看護師自身の【行動の変容】や【看護師としての内面的変化】をももたらしていた。また、【振り返りの習慣化】は、【自己への気づき】から【創造的な看護実践の学び】へのプロセス全体に及び、リフレクションによる構成要素の一つ一つに影響していくことにより、新人看護師の自立的な成長の促進要因になると考えられた。

今回の研究成果から、新人看護師のリフレクションは、リフレクティブサイクルのプロセスを用いてリフレクティブジャーナルの記載と対話によるフィードバック面接により、定期的に複数回行なうことが効果的であり、新人看護師の教育支援のツールとして活用できることが示唆された。

． 研究の限界と今後の課題

本研究は、リフレクションを行わなかった新人看護師とのリフレクティブな成長の比較を行っていないことの限界はある。しかし、新人看護師にとって、リフレクションは実践の経験を学びに変えることができる一つの方法であることを確認できた。今後、他の病棟への適用・分析を試み、新人看護師の成長を助ける教育支援のツールとして活用していくことが課題である。

謝辞

本稿を進めるにあたり、本研究にご協力を頂いた参加者の皆さまに深く感謝いたします。尚、本研究は宮崎大学大学院医学系研究科修士論文の一部を加筆修正したものであり、第35回日本看護研究学会学術集会で報告した。

文献

- 青木由美枝 (2003) : リフレクションの実際 - Gibbsのリフレクティブ・サイクルを活用して - , *Quality Nursing*, 9(2), 51-61
- ドナルド・ショーン (1938) / 佐藤学, 秋田喜代美訳 (2001) : 専門家の知恵 *The Reflective Practitioner*, 19-75, ゆみる出版, 東京
- FornerisSG, Peden-McAlpineC. (2007) : Evaluation of a reflective learning intervention to improve critical thinking in novice nurse, *Journal of Advanced Nursing*, 57(4), 410-21
- グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著 (2007) : よくわかる質的研究の進め方・まとめ方看護研究のエキスパートをめざして, 54-71, 医歯薬出版株式会社, 東京
- Gibbons, T., 照林社編集部編 (2003) : ナラティブで看護実践を伝えエキスパートナースを育成する, エキスパートになるためのキャリア開発, 照林社編集部編, 54-66照林社, 東京
- 本田多美枝 (2003) : Schon理論に依拠した『反省的看護実践』の基礎的理論に関する研究 - 第一部 理論展開 -, *日本看護学教育学会誌*, 13(2), 1-15
- 本田多美枝 (2003) : Schon理論に依拠した『反省的看護実践』の基礎的理論に関する研究 - 第二部 看護の具体的事象における基礎的理論の検討 -, *日本看護学教育学会誌*, 13(2), 17-33
- 本田多美枝 (2001) : 看護における「リフレクション (reflection)」に関する文献的考察, *Quality Nursing*,

- 7(10), 51-57
- 池西悦子, 田村由美 (2008): 看護実践に埋め込まれたリフレクションの構造 マイクロモメント・タイムライン・インタビュー法の活用, 看護研究, 41(3), 229-238
- 池西悦子, クレグ美鈴, 栗田孝子他 (2003): 看護専門職のリフレクションのプロセス - 継続教育への活用をめざして, 日本看護学教育学会第15回学術集会講演集, 225
- Jasper, M., (2003): *Beginning Reflective Practice*, Nelson Thornes, London, 148
- 加瀬田暢子, 前田ひとみ, 津田紀子他 (2007): 新入学生に対する「仲間づくり演習」の評価 - エンカウンターとリフレクションの概念を取り入れて, 南九州看護研究誌, 5(1), 1-10
- クラウス・クリッペンドルフ (1997)ノ, 三上俊治, 椎野信雄, 橋元良明訳 (2002): メッセージ分析の技法「内容分析」への招待, 勁草書房, 東京
- 幸文子, 東絹子, 山本治美 (2007): 新人看護師の「ピアカウンセリング研修」実施の試み, 看護展望, 32(8), 45-53
- 厚生労働省 (2009): 新人看護職員研修ガイドライン, <http://www.mhlw.go.jp/bunya/ityou/oshirase/100210-3.pdf>
- 前田ひとみ, 景山隆之, 津田紀子 (2007): 新人看護師の離職プログラム - エンパワメントを引き出す「仲間づくり」研修, 看護展望, 32(8), 38-43
- 松本智子, 小谷真由, 土橋操 (2008): チーム全体でプリセプターをサポートし新人を育てる, 看護実践の科学, 33(11)
- 中田康夫, 田村由美, 藤原由佳他 (2002): 基礎看護学実習におけるリフレクティブジャーナル導入の効果: リフレクティブなスキル活用の有無による検討, 神大医保健紀要, 第18巻
- 中田康夫, 田村由美, 藤原由佳他 (2004): <自己への気付き>のスキルを活用してリフレクティブジャーナルを記述した学生の変化, *Quality Nursing*, 10(5), 61-66
- 中野康子, 張替直美, 小林敏生 (2004): 新卒看護師の臨床実践能力向上に影響する要因と取り組みに関する縦断的研究, 山口県立看護学部紀要, 第8号, 99-107
- 中村美保子 (2011): 新人看護師野経験からの学びを支援する方法 - リフレクションと対話による関わり -, 看護管理, 第21巻, 第10号, 900-903
- 野地金子 (2004): 新人看護職員の到達目標と研修指針の提示 - 『新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会』報告書より -, 看護展望, 29(8), 865-872
- 大田祐子 (2001): 看護教師の成長をもたらす対話的リフレクションの意味・意義, *Quality Nursing*, 7(8), 20-25
- サラ・バーンズ, クリス・バルマン (2000)ノ田村由美, 中田康夫, 津田紀子監訳 (2005): 看護における反省的实践 - 専門的プラクティショナーの成長 -, ゆみ出版, 東京
- 竹崎和子, 竹永優子, 星野敬子他 (2002): 新人看護師の支援体制に関する意識調査, 日本看護学会集(看護管理), 111-113
- 田村雅子 (2008): 新人看護師教育の現状, *Nurse eye*, 21(3), 6-18
- 田村由美 (2007): 看護実践力を向上する学習ツールとしてのリフレクション, 看護教育, 48(12), 1078-1087
- 田村由美, 中田康夫, 藤原由佳他 (2002): オックスフォード・ブルックス大学におけるリフレクションを活用した看護教育カリキュラムの背景と概要, *Quality Nursing*, 8(4), 41-47
- 田村由美, 津田紀子 (2008): リフレクションとは何か その基本的概念と看護・看護研究における意義, 看護研究, 41(3), 171-181
- 田村由美, 中田康夫, 平野由美他 (2003): 実践的思考能力としてのリフレクション能力育成のための指導の実際, 看護教育, 452-456
- 津田紀子, 前田ひとみ (2006): リフレクションのエビデンス: クリティカルシンキング能力の育成, 臨床看護, 32(12), 1693-1702
- 内田美恵子, 三輪百合子 (2008): 新人看護師の「Okカード」導入の試み, *Nurse eye*, 21(3), 61-68
- 横土由美子, 井平葉子 (2000): プリセプターを受けた新卒者の内面に関する研究, 日本看護学会集(看護総合), 79-81
- 柳田邦男, 陣田康子, 佐藤紀子 (2011): その先の看護を変える気づき, 学び続けるナースたち, viii - x, 医学書院, 東京